

● 平成 29 年度国際連携推進事業報告

「J-PARC アジアサマースチューデントプログラム」

本プログラム（参考 URL：<http://kek.soken.ac.jp/sokendai/sitetop/jassp/>）は、高エネルギー加速器研究機構と日本原子力研究機構が共同運営する大強度陽子加速器研究施設 J-PARC にアジアから学部高学年から修士相当の学生を 1～3 ヶ月招聘し、総研大教員の指導の下、研究活動を体験してもら

p. 4

うプログラムで、総研大国際連携推進事業（事業枠 II：海外学生研究者招聘事業）の支援により実施しています。



本プログラムで招聘された学生の
実習風景

2017 年 5 月に採択決定後、速やかに総研大の紹介やプログラムの概要、募集要項をホームページにまとめて公募を開始し、アジア諸国(インド、中国、韓国、ベトナムなど)の研究者に、学生たちへの紹介を依頼しました。応募は全部で 18 名、滞在 34 人・月分(中国 4 名、韓国 1 名、インド 13 名)ありました。研究科の教員で構成される選考委員会による書類選考、面接を経て、最終的に 8 名(中国 2 名、韓国 1 名、インド 5 名。学部生 6 名、修士課程相当が 2 名)、12.4 人・月分の学生滞在を受け入れることにしました。

実習テーマは加速器制御から素粒子、原子核実験、物性研究など J-PARC で展開される全分野に渡っています。テーマ、滞在期間、滞在時期はまちまちですが、すべての学生に対して、総研大を紹介するレクチャーを受けてもらうこと、滞在中の研究を報告にまとめること、ホストグループで報告会を開いてプレゼンテーションを行うことを、共通のフォーマットとしています。また期間中に、KEK や J-PARC の最先端加速器施設の見学ツアーも企画しています。学生のレポート、スライド等は、本プログラムのホームページに随時掲載しています。

本原稿執筆時(12 月 25 日)では、滞在中が 2 名、滞在中が 4 名、今後 2 名が来訪予定です。まだ年度途中ではありますが、これまでの参加学生たちの様子を見ると、好奇心と学習意欲が非常につよく、また概して外向的で明るく、楽しく実習に取り組んでいるようにみえます。

本プログラムで期待される成果は、短期的には、学生の総研大進学、中長期的には、プログラムの経験者が総研大、または外国の大学院等を経た後、自国に帰り、日本、総研大、KEK、J-PARC との組織的連携のコアとして育つことなどです。また、本プログラムを通して、J-PARC の最先端加速器研究施設を用いた学部生・修士学生教育プログラムをより一層充実させるとともに、各国の各大学、研究機関と学術交流協定を締結して、より強固な交流を継続できる足場を固めていくことを目指しています。今年度は最初の試みであり、成果は今後現れてくると期待しますが、最初の成果として、このプログラムで滞在した学生のうち 2 名が、来年度総研大進学を希望してくれています。次年度以降もプログラムを改善しつつ継続し、総研大で研究をすることの魅力を伝えつつ、将来の国際連携の核となる人材を育てる一助となればと考えています。【高エネ研大学院教育係】